

薬は、病気を治したり、痛みや症状を軽くしたりする目的で服用します。しかし、程度に差はありますが、薬は効き目（効能・効果）だけでなく、副作用という「リスク」も併せ持っています。

例えば花粉症の薬で眠気が出るといった軽度のものから、全身に発疹が出たりアナフィラキシーショックを起こしたりする重篤なものまであります。症状の現れ方には個人差があります。抗がん剤などは多少の副作用が出ることを承知で使用する場合があります。とはいえ、予期せぬ症状が生じることもありますので、注意が必要です。

まずは自分が使用する薬について、起こりやすい副作用を事前に知っておくことが大事です。起こりやすい副作用は、薬の説

ちよつと得する
クズリの知識

<114>

使用前に副作用知って

明書に記載されていますし、インターネットでも簡単に調べることができます。その上で、薬を使用して異常を感じたら薬剤師にご相談ください。

処方された薬は、副作用が出たからといって急にやめてしまうと、治療している病気を悪化させてしまうことがあります。自己判断で薬の使用をやめたり、量を減らしたりすることはやめてください。また、薬による副作用なのか、別の疾患や症状の悪化なのかの見極めも必要です。薬の副作用と決めつけることで治療の選択肢を狭めてしまうこともありますので、必ず医師、薬

剤師に相談してください。

副作用については従来、医療機関や製薬会社などが国に報告していましたが、患者の皆さんやご家族から直接報告できるようになっています。独立行政法人「医薬品医療機器総合機構（PMDA）」の「患者の皆様からの医薬品副作用報告」です。多様な観点からの副作用報告を多く集めることで、これからの薬の安全な使用に役立てることができます。気になることがありましたら、ぜひご報告をお願いします。

（牧野 和也・県病院薬剤師会理事）

<毎月第4火曜日に掲載>